

シグマ研究委員会
2年度第4回運営委員会議事録

日 時： 1990年12月18日（火） 13:30～17:30

場 所： 日本原子力研究所本部 第6会議室

出席者： 中嶋（法政大）、北沢（東工大）、五十嵐（NEDAC）、吉田（東芝）
石井、菊池、平岡（金子代理）、水本、長谷川（以上原研）

幹 事： 中川、中島（原研）

オブザーバー： 松延（住友原工）、岸田（CRC）、川合（東芝）、井頭（東工大）

配布資料

1. 2年度第3回運営委員会議事録（案）とアクションリスト
2. 諮問調整委員会 議事概要
3. 国内における今後の核データの実験活動および将来計画についてのアンケート結果
4. 委員の交代について
5. 評価国際協力サブグループ1と5のレポート
6. 日本原子力学会（核データ・炉物理）合同特別会合（案）
7. 1990年核データ研究会のまとめ

議 事

I. 議事録確認

前回10月26日の議事録（配布資料1）を確認した。

II. 報告事項

1. 諮問調整委員会報告

水本氏が配布資料2と3に基づいて次の通り報告した。11月26日の諮問調整委員会でアンケートをとりまとめた結果を討論した。アンケートの回答者は測定者が主で評価者も一部含まれている。委員会では分類分けを行っただけである。今後の研究課題等をまとめる事になった。

これに対して、このアンケートの結果は大変貴重であるので何らかの形で出版するよう要望があった。

2. ユーリッヒ核データ国際会議プログラム委員会会合報告

12月13、14日の両日にユーリッヒで行われたプログラム委員会に出席した菊池氏から次の通り報告があった。

準備は順調に進んでいる。講演時間は招待講演が30分、口頭発表（投稿分）が15分である。口頭発表件数は希望者の1/4に制限された。ポスター発表希望は130件であった。全体の発表希望は390件であったが、300件（このうち口頭発表は招待講演も含めて50件）に縮小する必要性が生じた。この枠に従って論文審査を行った。今回の特徴は招待ポスター発表が設けられた事である。これに指定された発表は5分の口頭発表を行い、報文集のスペースも招待講演並（6ページ）に与えられる。日本からは、招待講演

1件、招待ポスター発表3件、口頭発表（投稿分）9件が認められた。発表を拒否されたのは3件のみであり、全体の比率からみるとこれは大変少なかった。またSummary Talkの候補者1名、セッション・ンチエアマンも何名か出す事になった。

3.核データ評価国際協力サブグループ会合報告

12月3～6日にNEA Data Bankで開催されたサブグループの会合の様子について川合氏から配布資料5に基づいて次の通り報告があった。

グループ1：Fe、Cr、Niの評価データの比較に関しては、JEDNL-3、ENDF/B-VIとJEF-2/EFF-2の評価データの間にかなりな隔たりがある。特に (n, α) 反応の断面積は14MeVではかなり近いが、7～13MeVでの差が大きい。これは14MeVでは実験値があるのに7～13MeVでは実験値がない事に起因する。

グループ2： ^{235}U の η はSantamarinaが当初言っていた通り熱中性子領域ではエネルギーと共に増加する可能性が大きいとの結論である。これは捕獲断面積が $1/V$ からずれている事を示す。

グループ5：Weston等（ORNL）の ^{239}Pu の核分裂断面積が1～100 keVで他の測定値と系統的に小さい問題については、Weston等のデータのほうが正しい可能性があるとの結論に達した。

4.NEA Data Bank 将来計画

菊池氏が次の通り報告した。1991年1月14日に開催されるNEAシンクタンク会合には更田副理事長と平岡原子炉工学部次長が出席する。Data Bankはどの国にも利益のある科学サービスをするように活動内容を変更する必要がある。植松NEA事務局長は現在のままではNEA Data Bankはつぶれるとの認識を持っている。次回の運営委員会でシンクタンク会合の様子を報告してもらう事にした。

5.1990年核データ研究会報告

井頭氏が配布資料7に基づいて次の通り報告した。口頭発表・ポスター発表とも充実しており、質疑応答も活発だった。しかしポスター会場の照明が暗かった、休憩あるいはポスター発表から口頭発表への切り替わりがスムーズでなかった、嵐にも関わらず原研バスの手配が出来なかった、などの問題点もあった。

III. 審議事項

1.原子力学会（核データ・炉物理）合同特別会合

北沢氏が配布資料6に基づいてテーマの提案を行った。若干の修正の後次の通り決定した。

(1) JEDNL-3に基づく汎用炉定数：45分+10分（質疑討論）

長谷川 明（原研）

(2) NEAにおける核データ評価国際協力サブグループ会合報告：

20分+10分（質疑討論） 川合 将義（東芝）

(3) IAEA主催「Advisory Group Meeting on the Nuclear Data for the Neutron Multiplication in Fusion Reactor First Wall and Blanket Materials」会合報告：

20分+10分（質疑討論） 前川 洋（原研）

(4) 事務局報告： 5分

2. 来年度委員交代について

中村知夫氏（原研）の高輝度光科学研究センター出向、飯島俊吾氏（東芝）の逝去により本委員会に2名の欠員が生じたので、来年度中村氏の後任には前川洋氏（原研）、飯島氏の後任には中村尚司氏（東北大）、渡辺昇氏（高エネルギー研）、秦和夫氏（京大）の3氏の内承諾が得られた方をお願いする事となった。（その後交渉の結果中村尚司氏と前川洋氏が本委員になることを承諾された。）来年度の諮問調整委員及び運営委員についても見直しを行い、交代を考える事とした。次回に、運営委員及び諮問調整委員の案を事務局が提出する事にした。

IV. その他

今回は3月1日（金）とする。オブザーバーはワーキンググループリーダーとし、次回と次次回とで各ワーキンググループの今年度活動のまとめと来年度活動計画を報告してもらうことにした。

Action List

No.	担当者	内 容	期 限
1	事務局	来年度の運営委員と諮問調整委員の候補者リストを作成する。	次回
2	事務局	来年度本委員候補者と交渉し承諾を得る。	1/10
3	全員	原子力学会の指定テーマについて提案	随時